

⑨日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭54—163934

⑤Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 05 D 1/16

識別記号 ⑥日本分類  
24(7) E 212

庁内整理番号 ④公開 昭和54年(1979)12月27日  
6683—4F

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭多色電気植毛法

⑰特 願 昭53—73484

⑱出 願 昭53(1978)6月17日

⑲発 明 者 川村了一  
加古川市尾上町池田191番地の  
2

⑲発 明 者 石井清志  
兵庫県加古川郡稲美町北山1264  
番地の99

⑰出 願 人 オーミケンシ株式会社  
大阪市東区淡路町4丁目25番地

⑳代 理 人 弁理士 水田一孝

明 細 書

1. 発明の名称

多色電気植毛法

2. 特許請求の範囲

- 1 接着剤層又は粘着剤層に密着した剥離紙の1部を除去して電気植毛し、順次剥離紙の他の部分を除去して異ったパイル又は粉末を電気植毛することによつて被植毛物上に所望の作画を完成せしめることを特徴とする多色電気植毛法。
- 2 接着剤層として通常の植毛に使用する接着剤を塗布後、剥離紙で上面を覆うか又は両面接着テープをそのまま使用するか、又は接着剤層の表面の剥離紙を除くことにより空気中の水分、酸素等で耐水、耐溶剤性の接着剤に変化するもの又は放射線、熱、日光等により耐水、耐溶剤性に変化する接着剤を使用する特許請求の範囲第1項記載の多色電気植毛法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は被植毛物上に多層でなく、1層に多

剥離紙の他の部分を除去して異ったパイル又は粉末を電気植毛することによつて被植毛物上に所望の作画を完成せしめる多色電気植毛法にして、仕上りに凹凸がなく、輪郭も明瞭ならしめ得る利点がある。

次に図面によつて本発明を詳細説明する。

第1図は本発明を実施するための実施状態を示す概略図の一実施例で、本発明に於ては電気植毛に供する支持体(1)に通常の方法で接着剤又は粘着剤を塗布した層(2)の上に剥離紙(3)～(8)を密着させておく、剥離紙のうち(3)～(5)は予め所望の作画の形状に切断しておくか又は線引きによる作画を施しておく、又は更に簡便には被植毛物の用途にもよるが、両面接着テープの片面に希望する図柄を画き、ナイフ等で輪郭に沿つて切れ目を入れた後、該被植毛物上に図柄のない面を利用して接着する。

先づ始めに電気植毛しようとする部分の剥離紙を除去する。この剥離紙を除去する方法としては例えば剥離紙(3)があらかじめ切断されてお

れば簡単にめくり取れば良いし、又剝離紙(3)の部分が線引きされた状態であれば剝離紙(3)が剝離できるようにナイフ等で切断した後剝離紙(3)をめくり取ればよい。

何れかの方法で剝離紙(3)を除去し、ついで露出した接着剤層又は粘着剤層(2)に所望する色のパイル又は粉末を電気植毛するのである。

その後同様の方法によつて剝離紙(4)を除去した後、新たに露出した接着剤層又は粘着剤層(2)に異つた色のパイル又は粉末を電気植毛する。かくて順次同様の方法で剝離紙(5)を除去した後新たに露出した接着剤層又は粘着剤層の上に異つた色のパイル又は粉末を電気植毛する。

既に電気植毛された部分にはパイル又は粉末は接着又は粘着しないため、乾燥後、余分のパイル又は粉末を除去すれば、パイル又は粉末による所望の画像や文字が再現される。

即ち所望する画像や文字が現れるのは剝離紙(3)～(5)上の画像や文字がそのまま再現するためである。

従つて剝離紙(3)～(5)における異なる部分の境界は明瞭であり、且つ平坦な仕上りが可能である。接着剤層は前記の如く、通常の植毛に使用される接着剤を塗布後、上面に切り込みをつけた剝離紙で覆う方法が使用される。

しかしながら更に簡便な方法として両面テープの片面の剝離紙上に図柄を画き、ナイフ等でその図柄に沿つて切り込みを入れる。

ついで反対の面を利用して被植毛物である壁面等に粘着せしめ、その後切れ目を入れた図柄を順次はき取りながら電着を行なうのが簡便である。

使用目的が壁面装飾等の強度を必要としない場合はこれでよいが、テーブル用小物類等にして強度を要求される場合には該両面テープ粘着剤として近時開発されつつある硬化型粘着剤が好適である。この場合の硬化は空気中の酸素、水分の反応によるものでもよく、又熱、光、放射線によるものでもよい。

何れの場合も本発明の多色電気植毛法によつ

て、一層に一段で多色にして精緻な電気植毛が可能である。

以下に本発明の実施例を示すが本発明は勿論実施例のみに限定されるものではない。

#### 実施例 1

接着剤として下記の配合組成物を使用した。

アクリル系共重合物接着剤

(日本カーバイト工業株式会社製、ニカゾールFX-1473)  
82.4部

メラミン系樹脂

(三和ケミカル株式会社製、ニカラックMX-031)  
4.2部

アクリル系共重合樹脂

(日本カーバイト株式会社製、ニカゾールKE-253)  
5.0部

架橋剤

(日本カーバイト株式会社製、CML)  
6.0部

25%塩化アンモニウム水溶液  
0.6部

25%アンモニア水  
1.8部

計 100部

(部はすべて重量部を示す。)

布帛上に上記の接着剤をナイフコーターにて塗布後接着剤層上に所望の多色図柄を描画した剝離紙(ポリエチレンラミネートした上にシリコン処理を行なつたクラフト紙)を密着させ、カッティングする。

ついで図柄模様の黒に相当する部分の剝離紙を除去し、黒色ナイロンパイル(3デニール、カット長、1.0mm)を静電気発生装置を使用して植毛する。

更に順次赤、青、黄色に相当する部分の剝離紙を除去し、赤、青、黄色のナイロンパイル(3デニール、カット長1.0mm)を植毛した後、130℃、5分間キュアリングを行つたところ、耐摩耗性、耐水性ともに良好な、しかも型際の鮮明な4色の模様付布帛ができた。

#### 実施例 2

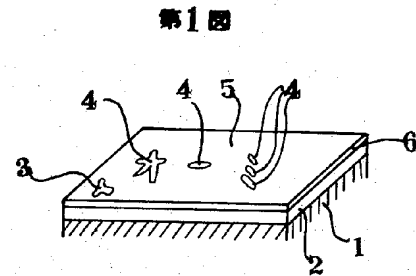
施工された壁面の多色図柄模様を模範をたい場所へ両面粘着テープ(積水化学工業株式会社製)を貼りつける。ついで所望の図柄を描画し、カッティングする。

次に実施例1と同様に所望する赤、桃、黄色の部分に順次除去し、それぞれ赤、桃、黄色のナイロンパイル(1.5デニール、カット長0.5mm)を静電気発生装置を使用して植毛したところ耐摩耗性、耐水性は実施例1の場合よりもやや劣るけれども仕上りの良好な多色壁面が得られた。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明を実施するための実施状態を示す概略図の一実施例を示す。

- 1 支持体
- 2 接着剤層又は粘着剤層
- 3～6 剝離紙



特許出願人 オーミケンシ株式会社

代理人 弁理士水田一孝

